

福島県内大学図書館連絡協議会誌

第 14 号

第 29 回 福島県内大学図書館連絡協議会 総会議事録

福島学院大学図書館情報センター	1
-----------------------	---

第 19 回 福島県内大学図書館協議会実務者研修会 報告

テーマ「機関リポジトリ」

* 研修会報告	4
---------------	---

福島学院大学図書館学術情報センター

福島県立医科大学附属学術情報センター

福島県立図書館

福島大学附属図書館

* 講演：「研究者から見たリポジトリ」

・ 日本大学文理学部教育学科 准教授 小山 憲司	6
--------------------------------	---

* 事例発表(1)「リポジトリ導入事例」

・ 福島県立医科大学附属学術情報センター 西戸 雅博(DSpace)	11
---	----

・ 青森県立保健大学附属図書館 山田 奈々(XooNlps)	13
--------------------------------------	----

・ 神戸松蔭女子学院大学図書館 加川 みどり(JAIRO Cloud)	16
---	----

* 事例発表(2)「リポジトリ原則登録のルールづくり」

・ 名古屋工業大学附属図書館 林 和宏	20
---------------------------	----

* DRF-Fukushima アンケート集会結果

参考資料

・ 「図書館におけるソーシャルメディア活用に関する調査」(集計)	24
--	----

・ 「震災関連資料収集・情報提供に関する調査」(集計)	26
-----------------------------------	----

トピックス

* 「福島県の図書館を考えるシンポジウム」	29
-----------------------------	----

日本図書館協会・福島県公共図書館協会 共催

* 「震災記録を図書館に」キャンペーン	31
---------------------------	----

福島大学附属図書館 対馬 庸二

福島県内大学図書館連絡協議会会則	32
------------------------	----

第 29 回 福島県内大学図書館連絡協議会総会議事録

日 時 : 平成 24 年 9 月 26 日 (水) 13:30 ~ 16:30

場 所 : 福島学院大学 本館 3 階 31 番教室

出席者 : 11 館 17 名

(欠席館 : 会津大学短期大学部附属図書館、桜の聖母短期大学図書館情報センター)

歓迎挨拶	福島学院大学 学長	阿 部 正
開会挨拶	福島学院大学図書館情報センター 館長	呂 学 如
常任幹事館挨拶	福島大学附属図書館長	高 橋 隆 行

出席者の自己紹介ののち、議長選出

平成 24 年度幹事館である福島学院大学図書館情報センター館長が議長となり、議題審議に入った。

1. 協議事項

(1) 平成 23 年度福島県内大学図書館連絡協議会事業報告及び会計報告

昨年度幹事館の東日本国際大学・いわき短期大学より、平成 23 年度事業報告として、第 18 回総会の開催及び 実務者研修会について報告があり、それぞれ承認された。

会誌 13 号の発行については、日本大学工学部が発行済みであることを報告し承認された。

次に、平成 23 年度会計について、福島大学より報告が行われ、承認された。

加えて、福島大学より、繰越金がかなりあるので、どのように使用すべきか、との話があり、協議の結果、今後、折を見て再検討することとなった。

(2) 平成 24 年度福島県内大学図書館連絡協議会事業計画 (案) 及び予算 (案)

今年度幹事館の福島学院大学より、事業計画 (案) として、第 29 回総会の開催、実務者研修会の実施、会誌第 14 号の発行について発案された。

続いて、福島大学より平成 24 年度予算 (案) について説明が行われ、いずれも承認された。

(3) しらさわ夢図書館の本協議会の「相互利用制度」への加盟申請について

議長より、各加盟館に対し事前照会を行い、13 館からの回答は全て「可」であった旨の説明があり、改めて満場一致で承認された。

紹介役となった県立図書館より、本宮市しらさわ夢図書館に代わり、御礼が述べられ、本日総会において申請が許可されたことを、改めて当該館に連絡することとした。

(4) 福島県内大学図書館連絡協議会総会主催担当幹事館の輪番制について

福島大学より、第 30 回 (2013) ~ 第 37 回 (2020) までの幹事館予定について、別紙資料を基に、説明があった。

また、第 32 回 (2015) の幹事館については、担当地区が福島地区となるが、福島地区内の順番に従うと常任幹事館である福島大学が幹事館も兼ねることとなるため、運営上の問題がないか意見を求められ、協議の結果、担当地区である福島地区の 4 館 (福島大学、福島県立医科大学、県立図書館、福島学院大学) で、対応を検討し、決定次第、各館に報告をすることで了承された。

(5) 東北地区大学図書館協議会平成 24 年度合同研修会の開催担当館について

福島大学より、東北地区大学図書館協議会平成 24 年度合同研修会の開催担当地区が順番により福島県である旨説明があり、担当を希望する館の挙手を願ったが、最終的に福島大学附属図書館が自館にて開催することを引き受けた。

時期としては来年の 7 月頃の予定ということである。なお、前回 (6 年前) は、会津大学にて開催され、6 年後に再度福島県での開催が回ってくるということについても確認された。

2. 承合事項〔別紙資料参照〕

(1) 「学生スタッフの活用について」 【提案館・・・福島大学附属図書館】

福島大学より、「学生スタッフの活用について」の提案があった。
各加盟館より事前に提出された回答の資料を基に、意見交換が行われた。

(15 時休憩に入る。15 時 20 分再開)

(2) 「ラーニング・コモンズの導入について」

【提案館・・・福島学院大学図書館情報センター】

福島学院大学より、「ラーニング・コモンズの導入について」の提案があった。
各加盟館より事前に提出された回答の資料を基に、意見交換が行われた。

(3) 「電子書籍の導入について」

【提案館・・・福島学院大学図書館情報センター】

福島学院大学より、「電子書籍の導入について」の提案があった。
各加盟館より事前に提出された回答の資料を基に、意見交換が行われた。

3. 報告事項

(1) 福島県内大学図書館連絡協議会会誌第 14 号の発行について

会誌 14 号は、昨年度幹事館であった東日本国際大学・いわき短期大学（昌平図書館）が作成することになっており、同大学・短大の昌平図書館から今回の総会や 12 月 20 日実施予定の実務者研修会を含めた内容で、平成 25 年 2 月頃に発行したいとの説明があった。

なお、昌平図書館より、会誌作成にかかる費用の負担について、従来どおり作成担当館の負担でよいかとの確認があった。

協議の結果、福島大学から、会誌を電子化し、PDF 化した内容をメールに添付の上、各加盟館宛に送付するとの提案があり、了承された。

議長より、この件については、今年度より試行し、何か不都合や問題等があれば、次年度改善を行うとの話があり、了承された。

4. 次期幹事館について

次期幹事館に予定されている、郡山女子大学図書館より挨拶があった。

5. その他

(1) 第 19 回実務者研修会の開催について

平成 24 年度担当の福島地区：福島学院大学より、実施計画概要(案)について別紙資料のとおり説明され、詳細については、おって案内するとの話があった。

(2) 震災関連資料の収集および発信について

福島大学附属図書館より、震災関連資料の収集および発信については、会誌第 13 号に、実務者研修会報告として掲載してある旨の説明があった。

議長より、この件に関しては、12 月予定の実務者研修会のテーマの一つでもあるので、その際に意見交換を行うようにしては如何かとの話があり、了承された。

以上、議事および報告が終了し、議長より閉会を宣言した。

議事終了後に、次のとおり、2 件の催し物、及び県内大学図書館連絡協議会年会費の納入について、連絡があった。

県立図書館より、「平成 24 年度 北日本図書館連盟研究協議会・第 10 回福島県図書館研究集会」の案内があった。〔別紙資料参照〕

福島大学より、「知的書評合戦 ビブリオバトル 2012 首都決戦」の案内があった。〔別紙資料参照〕

福島大学より、平成 24 年度福島県内大学図書館連絡協議会年会費（5,000 円）について、配付した請求書による納入依頼があった。

なお、総会の開催に先立って、担当幹事館である福島学院大学の新校舎、並びに図書館等施設の見学・案内が希望者（8 名）に対して、行われた。

（以上）

第19回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会報告

平成24年9月26日開催の平成24年度総会では、平成24年12月20日に県立図書館を会場に開催すると案内したが、テーマを「機関リポジトリ」として、下記実施要項のとおり同時期に開催されることになった「DRF-Fukushima - DRF 地域ワークショップ（東北）」との共催とした。

当連絡協議会加盟館からは10館21名（ワークショップ発表者を含む）の参加があった。

初めに、日本大学文理学部准教授 小山憲司 氏 による「“ 機関リポジトリを知りすぎた ” 研究者から見たリポジトリ」と題して基調講演があり、リポジトリとオープンアクセスの関係、ILL 分析による情報利用行動の実態、学術情報の消費者・生産者という研究者の2つの立場からのリポジトリに対する研究者の評価が解説された。

続いて、福島県立医科大学附属学術情報センター 西戸雅博さん、青森県立保健大学附属図書館 山田奈々さん、神戸松蔭女子学院大学図書館 加川みどりさんからリポジトリ導入の事例発表があり、Dspace, Xoonips, JAIRO Cloud それぞれの特性、導入時の準備及び他大学担当者とのつながりやコミュニティなどが報告された。

また、名古屋工業大学附属図書館 林和宏さんから、リポジトリ原則登録のルールづくりの制度設計や学内合意形成までの道のりについて報告があった。

その後の分科会では、4 グループに分かれて、「研究者へのアプローチ」、「リポジトリの構築」をテーマに活発な意見交換を行い、各グループの検討結果報告により課題の共有を図った。

研修会実施要項、講演資料及びアンケートは以下のとおりである。

平成25 年1 月23 日

福島学院大学図書館情報センター
福島県立医科大学附属学術情報センター
福島県立図書館
福島大学附属図書館

第19 回福島県内大学図書館協議会実務者研修会実施要項

平成24年12月21日
福島県内大学図書館連絡協議会

1. 研修会の目的

福島県内大学図書館連絡協議会では、年1回実務者研修会を開催することにより、現在の大学図書館が直面している諸問題に対する認識を深めている。またその際、講演を聴講するだけでなく、研修会の参加者個々人が意見交換を行う時間を設けることにより、参加者が問題をより自らに引きつけて考えるきっかけとするとともに、第1回研修会以来の「手作りの研修会」の伝統を継承する。

なお、今年度は同時期に開催されるDRF-Fukushima - DRF 地域ワークショップ（東北）（以下：WS）と当研修会を共同開催とすることで、研修会単独では招くことがむずかしい講師による講演や発表を聴講し、情報交換の場を得る機会とする。

2. 受講対象者

（ア）福島県内大学図書館連絡協議会加盟館の職員

（イ）福島県内の公共図書館職員

上記の範囲で40 名程度を予定

3. 日程及び会場

日程：平成24年12月21日（金） 13：20 - 17：00

会場：福島大学：共生システム理工学類後援募金記念棟

4. テーマ

DRF 地域ワークショップ（東北地区）「DRF-Fukushima」

リポジトリ導入後数年経過した機関の方からリポジトリ導入を検討中の機関の方まで幅広くご参加いただけるよう、以下のとおりとする。

1. リポジトリに対する研究者の評価
2. リポジトリの導入事例
3. 研究成果の収集

5. スケジュール

12:50-13:20 受付

13:20-13:30 開会（館長挨拶・ガイダンス）

13:30-14:30 講演 研究者から見たリポジトリ

日本大学文理学部教育学科 准教授 小山憲司

14:30-15:00 事例発表（1）リポジトリ導入事例

福島県立医科大学附属学術情報センター 西戸雅博（DSpace）

青森県立保健大学附属図書館 山田奈々（XoonIps）

神戸松蔭女子学院大学図書館 加川みどり（JAIRO Cloud）

15:00-15:15 事例発表（2）リポジトリ原則登録のルールづくり

名古屋工業大学附属図書館 林和宏

15:15-15:30 （休憩）

15:30-16:40 分科会

研究者へのアプローチ・コンテンツ収集

リポジトリの構築（検討）状況～構築・導入に向けた準備とは

16:40-17:00 閉会（講評・挨拶）

（17:30-情報交換会）

6. 確認事項

- 研修会で使用する機材等は、DRF と協議会が調整し、準備する。



高橋館長（福島大学）挨拶



小山先生（日本大学文理学部）講演

研究者から見たリポジトリ

日本大学文理学部 小山憲司
koyama.kenji@nihon-u.ac.jp



本日のアウトライン

- ・(参考)機関リポジトリとは
- ・機関リポジトリとオープン・アクセス
- ・機関リポジトリの可能性(これまでの成果)
 - ・ NACSIS-ILLログデータ分析
- ・機関リポジトリの可能性(OAと研究者)
 - ・ 学術論文の消費者としての研究者
 - ・ 学術論文の生産者としての研究者
- ・ まとめ

機関リポジトリとは

- ・ 大学等が所属研究者等の研究成果等を収集、整理、保存し、インターネット上に公開したデジタル・アーカイヴ
 - ・ 大学等＝設置主体
 - ・ 所属研究者等＝教員、研究者、職員、学生...
 - ・ 研究成果等＝査読つき論文、査読なし論文、教材...
 - ・ 収集、整理、保存、公開＝図書館の得意分野？
- ・ 利用者はだれ？
 - ・ コンテンツの利用者
 - ・ システムの利用者＝大学等を構成する人々ほか

機関リポジトリの目的

- ・ Crow(2003)による定義
- ①学術コミュニケーション・システムの変革を促す装置になる
 - ・ セルフ・アーカイヴによるオープン・アクセス
 - ・ OAI-PMHによるメタデータの流通
 - ・ 研究成果の保存とアクセスの保証
- ②大学の研究成果のショーケースになる
 - ・ 研究機関としての社会的役割

(出典: Raym Crow. The Case for Institutional Repositories: A SPARC Position Paper. ARL Bimonthly Report. 2002, 223. http://works.bepress.com/ir_research/7/ (accessed 2012-12-14); クロウ, レイム. 機関リポジトリ論議: SPARC声明書. 栗山正光訳. http://www.tokuiwa.ac.jp/~mtkuri/translations/case_for_ir_jpr.html. (参照2012-12-14).)

オープン・アクセスの実現方法

- ・ Budapest Open Access Initiative (BOAI)
- I. セルフ・アーカイビング (Self-Archiving)
 - ・ 著者自身のウェブサイトでの公開
 - ・ イープリント・アーカイブ (プレプリントサーバ): arXiv
 - ・ 政府主導 (中央集権型) 分野別アーカイブ: PubMed Central など
 - ・ 機関リポジトリ (Institutional Repository: IR)
- II. オープンアクセス・ジャーナル (Open-access Journals)
 - ・ 完全無料型
 - ・ 著者支払い・読者無料型
 - ・ ハイブリッド型
 - ・ 一定期間後無料公開型
 - ・ 電子版のみ無料公開型

(出典: 倉田敬子著『学術情報流通とオープンアクセス』勁草書房, 2007. p.164-178.; 三根慎二「オープンアクセスジャーナルの現状」『大学図書館研究』No.80, 2007. p.54-64)

機関リポジトリとオープン・アクセス

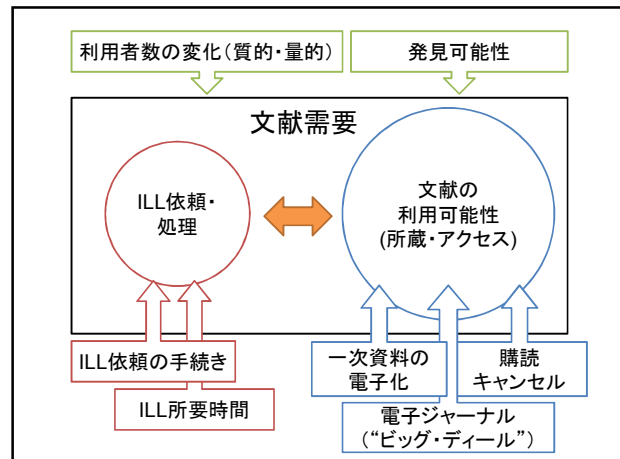
- ・ オープン・アクセスを実現する方法は、機関リポジトリだけではない
- ・ 機関リポジトリは、オープン・アクセスの理念のみを実現するものでもない



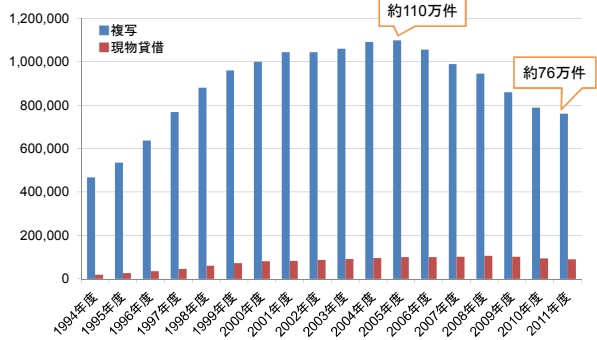
- ・ 機関リポジトリの可能性を考え、実現していくこと
- ・ そして、それを利用者に伝えること

機関リポジトリの可能性(これまでの成果)

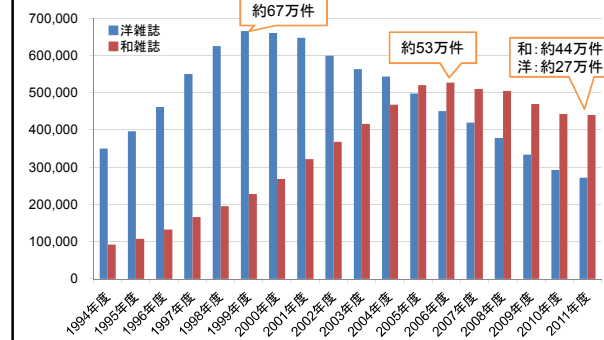
- ・ CiNiiにおける機関リポジトリ収録論文アクセス数とILL
- ・ 紀要論文の登録・公開とILL



NACSIS-ILLの処理件数



和洋別複写処理件数

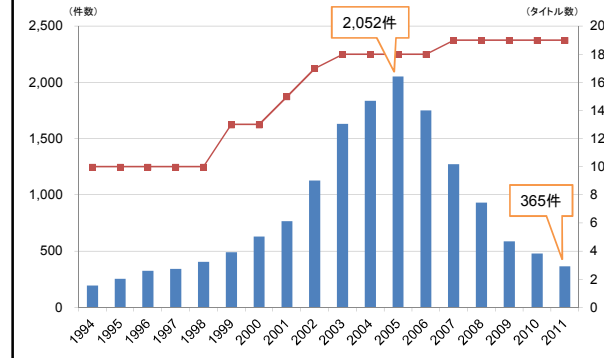


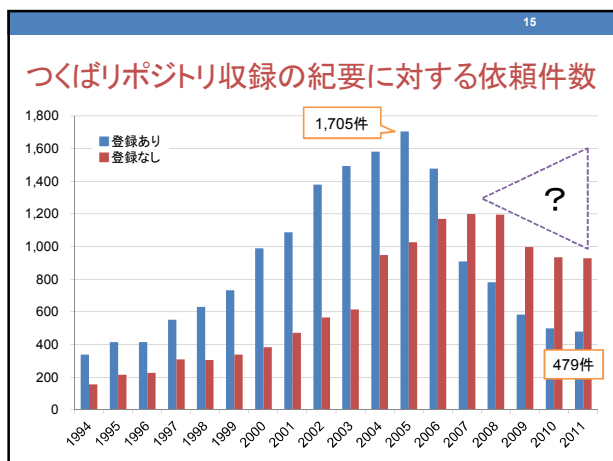
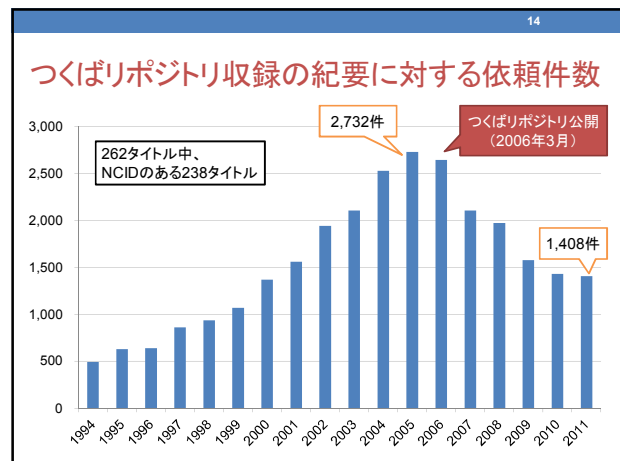
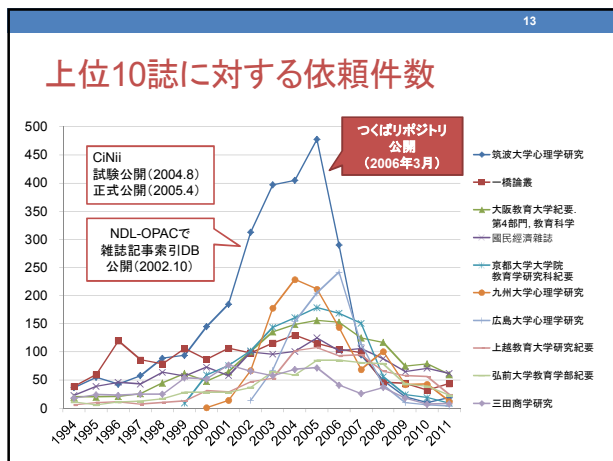
機関リポジトリ クリック上位20誌

	タイトル	件数		タイトル	件数
1	筑波大学心理学研究	955	11	(図書)	427
2	一橋論叢	807	12	同志社法学	411
3	大阪教育大学紀要・第4部門, 教育学	798	13	数理解析研究所講義録	392
4	国民経済雑誌	769	14	教育実践総合センター研究紀要	374
5	京都大学大学院教育学研究科紀要	639	15	彦根論叢	361
6	九州大学心理学研究	511	16	学部・附属学校共同研究紀要	359
7	広島大学心理学研究	500	17	大分大学教育福祉科学部研究紀要	330
8	上越教育大学研究紀要	473	18	岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要	308
9	弘前大学教育学部紀要	429	19	同志社政策科学研究	305
10	三田商学研究	428	20	千葉大学人文社会科学部研究紀要	298

(出典: 他機関 機関リポジトリが学術文献流通の中で果たしている役割: 電子化プラットフォーム, Open Access, Public Access. Open Access Week Seminar, 2012.)

上位19誌に対するILL依頼件数





16

ILLログデータ分析にみる情報利用行動の実態

- 顕在化した文献需要が利用に結びつくケース
 - 文献の利用可能性が向上したことで、ILL依頼件数が減少
 - 発見可能性が高まったことにより、利用できないものに対するILL依頼件数が増加
- 文献需要が顕在化したものの、利用に結びつかないケース
 - 「入手をあきらめる」

17

機関リポジトリの可能性(OAと研究者)

- 学術論文の消費者としての研究者
- 学術論文の生産者としての研究者

18

学術論文の消費者である研究者からみたOA

- 機関リポジトリによる恩恵の享受
 - 特に、日本語文献の利用者
 - 新たな読者の開拓にもつながっている
- 学術出版社によるさまざまなサービスの展開
 - OAオプションの提供
 - OAメジャーナルの発行
- 研究成果のOA義務化
 - 公的資金による研究成果
 - 学位論文のインターネット公開

19

学術論文の消費者である研究者からみたOA

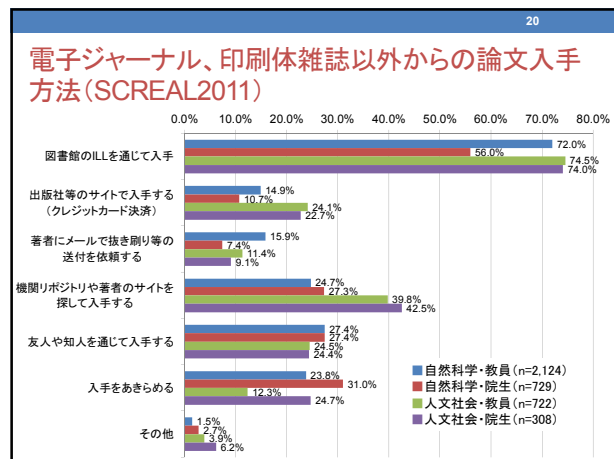
- ・機関リポジトリによる恩恵の享受
- ・学術出版社によるさまざまなサービスの展開
- ・研究成果のOA義務化

↓

- ・電子的学術情報流通の充実(情報入手環境の大幅な改善)
= “電子的に入手できて当たり前”

↓

- ・電子的に流通していないことのリスク
 - ・読まれない
 - ・引用されない
 - ・“この世に存在しない”のと同等？



21

学術論文の消費者である研究者からみたOA

- ・発見可能性から利用可能性へ
 - ・「検索されないものはないのと同じ」
 - ・「利用できないものはないのと同じ」？

↓

読むべきかどうか

読めるかどうか

2つの判断基準

22

学術論文の消費者である研究者からみたOA

- ・機関リポジトリによる恩恵の享受
- ・学術出版社によるさまざまなサービスの展開
- ・研究成果のOA義務化

↓

- ・電子的学術情報流通の充実(情報入手環境の大幅な改善)
= “電子的に入手できて当たり前”

↓

- ・電子的に流通していないことのリスク
 - ・読まれない
 - ・引用されない
 - ・“この世に存在しない”のと同等？

正当な評価を受けられない可能性も！

23

学術論文の生産者である研究者からみたOA

学術論文の投稿先

- ① 正当な評価(高評価)が得られる
 - ・インパクト・ファクター
 - ・生命科学分野でのCNS症候群
- ② 読んでもらいたい読者がいる
- ③ 公開までの期間が短い(審査がはやい)
- ④ 多くの人に読んでもらえる公開方法がある
 - ・OAオプション、OAメガジャーナル

機関リポジトリの特徴(得意分野)

大手の学術出版社はサービスを開発し
ニーズを開拓(喚起)してきた

24

研究者からみたOA

機関リポジトリに求められるもの(こと)

- ・本文が読める(利用可能性を高める)
- ・論文にたどりつくことができる(発見可能性を高める)
- ・論文がどのくらい(どのように)使われているのかわかる

研究成果はもちろん、
研究者自身のプレゼンスを高める

大学のプレゼンスが高まる

まとめ

- ・ 学術情報(特に紀要などの日本語文献)流通を支援する基盤の1つとして、欠かせない存在
- ・ オープン・アクセスを実現する装置の1つとして、欠かせない存在
- ・ 利用者の情報利用行動を意識したサービスの展開が必要
 - ・ 機関リポジトリに収蔵することの意味、意義
 - ・ 機関リポジトリを大学(学術機関)が持つことの意味、意義

ご清聴ありがとうございました

koyama.kenji@nihon-u.ac.jp



福島県立医科大学におけるリポジトリ導入事例 (DSpace)

福島県立医科大学附属学術情報センター
西戸 雅博

repository@fmu.ac.jp

福島県立医科大学学術成果リポジトリ
<http://ir.fmu.ac.jp/dspace/>



福島県立医科大学

- 2学部(医学部・看護学部)
 - 学部生 + 大学院生 約1,200名
 - 教職員 約1,600名
- 附属学術情報センター
 - 図書館・展示館担当 + 情報システム担当



2

リポジトリ公開まで

- 2009年10月～
 - リポジトリWG(6回) 内容は勉強会
- 2009年12月
 - 附属学術情報センター運営委員会 図書・展示部会 ⇒ Goサイン
- 2010年4月
 - 学内へコンテンツ提供依頼
- 2010年6月1日
 - 「福島県立医科大学学術成果リポジトリ」公開開始



3

サーバ構築

- DSpace (バージョン1.4.2)
- 図書館システム更新時に、空のサーバを用意
- インストールは当センター情報システム担当



4

初期コンテンツ収集

- 雑誌掲載論文
 - Scopusで本学教員の論文を検索 → 著作権に関する調査 → 本学所属のコレスポンディングオースーに提供を呼びかけ
 - 依頼: 218報 提供: 14報
- 福島県立医科大学看護学部紀要
 - 5号(2003年)～
 - 5号以降、著作権の帰属は看護学部
 - NIIで電子化したPDFファイルも利用



5

公開準備ーその他

- 広報資料の作成
 - リポジトリ準備サイト(現:リポジトリ総合案内)
<http://ir.fmu.ac.jp/ir/>
 - チラシ
- リポジトリ取扱要綱の策定
 - コンテンツを登録できる人は?
 - コンテンツの登録方法は?
 - コンテンツの取扱いは?



6

公開時

- NIIへハーベスティング申込
- 各リポジトリリストへ掲載申込

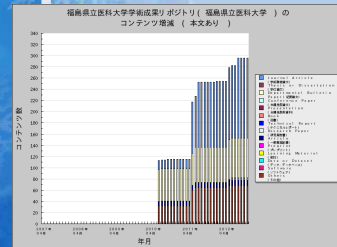
参考: <http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?startup>

- DSpaceへクロスウォークの設定を済ませておいた



7

コンテンツ数の推移



114 (2010.06.01)

↓

298 (2012.12.14)

(2011.05 Fukushima J Med
Sci Vol.49-55 公開によるコン
テンツ増加)

http://irdb.nii.ac.jp/analysis/shousai.php?ir_no=155



8

高頻度利用アイテム

順位	資料名	ダウン ロード
1	入院している子どもに付き添う家族に関する文献検討	1544
2	フェルミオ素粒子を取り入れた母性看護学の展開	1472
3	素朴一型	1386
4	臨床看護研究の文獻レビュー(1998年～2007年)	1272
5	臨床における看護婦人による攻撃的行動の分析	1218
6	わが国における看護婦人に関する文献の検討	1215
7	精神科看護における看護婦人による攻撃的行動と看護チームのサポートについて の分析	1182
8	看護婦人による数値的注射の実施: 実施内容と困難の理解状況	1081
9	看護婦人による数値的注射の実施と課題	1051
10	女性看護婦が男性看護婦に期待する職務: 役割に関する調査研究	1013

http://ir.fmu.ac.jp/dspace/es?action=show_date&range=all
2012.12.13 現在

※月ごとのダウンロード総数は約1,600～5,400件



9

これから...

- 学術雑誌掲載論文提供の呼びかけ
 - 初期コンテンツ収集時に行ったのみ
- 「福島医学雑誌」(福島医学会発行)の電子化
 - 2003年以降、電子化予定(現在作業中)
- 震災関連コンテンツ



10

XooNlps導入事例

～青森県立保健大学の場合～



2012/12/21

青森県立保健大学リポジトリのあゆみ

2009年7月

- ・CS委託事業採択

2009年9月

- ・図書館システムのリプレイス業者選定と同時に機関リポジトリソフトを決定（機関リポジトリサーバーの保守費用を図書館システムリース契約に含めて確保）

2009年10月

- ・運用方針決定

2009年11月

- ・業務用端末にデモ用機関リポジトリ（XooNlps Windows版）を構築
- ・教員会議で論文提供依頼

2009年12月

- ・図書館システム機器入れ替えと同時に機関リポジトリサーバーを設置（XooNlps Linux版）

2010年1月

- ・学内セキュリティポリシーで外部公開するサーバーはDMZに設置することに
- 外部公開用サーバーの購入が必要
- ・定款公募

2010年2月

- ・大学紀要の機関リポジトリ掲載決定
- ・定款を「A-plus（アプラス）」に決定
- ・外部公開用サーバー設置

2010年3月

- ・試験公開（学内限定）
- ・研修科ブックレットの一括登録決定

2010年4月30日

- ・試験公開

2010年6月15日

- ・正式公開（紀要論文455件、学術雑誌論文4件、ブックレット2件）

2011年2月

- ・ロゴマーク使用開始



学術情報
作成

青森県立保健大学リポジトリ A-plus（アプラス） <http://a-plus.auhw.ac.jp/>



XooNlpsを好きな理由

- ・カスタマイズしなくても満足

例）インデックスツリーを
トップページに表示できる



- ・ユーザーコミュニティ

例）予備知識なしでも、ワークショップに参加
した翌日に自力構築できる



<http://njc.brain.riken.jp/xoonlps/>

こんな方にオススメします

- ・自機関にサーバーを設置する必要があるが、お金や手間をあまりかけられない方
- ・この際だから自分のスキルアップを兼ねてシステム構築やサーバー管理をやってみたい方
- ・ユーザーコミュニティを重視する方

XooNlpsとは？ (I)

- ・国産のオープンソースリポジトリソフト

- ・開発：理化学研究所脳科学総合研究センターニューロインフォマティクス技術開発チーム
- ・管理・運用：神経情報基盤センター
- ・XooNlps-Libraryモジュール開発：慶応義塾大学メディアセンター本部

イチオシ
ポイント

- ・日本語データに対応可能
- ・困った時に日本語で問い合わせが可能

XooNlpsとは？ (2)

- XOOPSをベースにしている
- 無料のコンテンツマネジメントシステム(CMS)
- 無料素材や解説サイト、解説本が充実している

イチオシ
ポイント

- 簡単にレイアウトを変更できるので、使い始めてみてもアレンジ可能

7

構築にあたり購入したもの (1)

◆ サーバー

- ・ 学内用サーバー 1台
(富士通 PRIMERGY TX150 S6)

※図書館システム契約に含めた5年リース。当初は外部公開用として手配したが、情報セキュリティポリシーが策定され、外部公開するサーバーは図書館内に設置できないこととなったがラックマウントタイプだったため移設できず、学内用に変更。現在は許諾依頼の進捗状況管理のための仮データ登録用として使用。

- ・ 外部公開用サーバー 1台
(富士通 PRIMERGY RX100 S5)

8

構築にあたり購入したもの (2)

◆ パソコン

- ・ 2台...画像処理を想定しモニター大きめ

◆ スキャナー

- ・ ドキュメントスキャナー 1台(Canon image FORMURA DR-9050C)...両面同時スキャン用

- ・ ブックスキャナー 1台(アイテックス Optic Book A300)...製本された資料のスキャン用

9

構築にあたり購入したもの (3)

- ◆ PDFファイル作成ソフト
(Adobe Acrobat Pro9×2)

- ◆ OCRソフト
(メディアドライブ e.Typist v.12.0×2)

- ◆ 画像処理ソフト
(Adobe PhotoShop CS4×2)

- ◆ ウィルス対策ソフト

10

構築前にやったこと

- 運用指針策定
- デモ用システムの構築
- 教員会議でリポジトリの説明、論文等提供依頼
- 図書館委員(各学科の教員1名)にインタビュー...リポジトリについてのイメージ、よく使うデータベース、論文管理方法など

11

構築後にやっていること (1)

- 論文等の提供依頼(1年目~2年目)
 - 第1弾 特別研究費報告書の筆頭著者(本学教員)全員に提供依頼
 - 第2弾 第1弾の回答があった教員にその他の論文等についても提供依頼

→回答が少なかった

- ・ 共著者の許諾を筆頭著者に依頼したため、多忙な教員は対応が困難
- ・ 提供用の様式(1論文1枚)がわかりにくい

12

構築後にやっていること (2)

- 論文等の提供依頼（構築3年目）
 - 様式の見直し
 - 共著者の許諾は図書館で代行
 - 学生アルバイトの企画による論文等インタビュー（研究室訪問）
 - 進捗状況管理用サーバーに提供依頼予定の仮データをすべて入力

→手ごたえはあったものの...

- 研究室訪問のアポが取れないほど教員は多忙
- 筆頭著者の許諾は得やすくなったが、図書館側は大忙し
- 共著者が多いと進捗状況管理が繁雑
- 共著者の連絡先不明が案外多い

13

構築後にやっていること (3)

- 論文等の提供依頼（2012年度・構築4年目）
 - 共著者への許諾依頼の代行を続行
 - 出版者ポリシーの事前調査（共著者への許諾依頼に手間がかかるため、出版者ポリシーを事前に調査し、登録対象論文を減らした上で共著者へ依頼）
 - 「訪問100人できるかな？」

14

構築後にやっていること (4)

- オープンアクセスウィーク（毎年10月下旬）を中心とした広報活動
 - 2012年度の主な活動
 - 公開勉強会（2回）@図書館前
 - 2011年度論文等インタビューのポスターを展示し、お昼休みにコーヒー無料サービス@図書館前
 - リポジトリQUIZ@図書館カウンター（毎日正解者先着10名に手作りクッキープレゼント）
 - ブックカバー（文庫判）、しおりを作成



15

小さな大学でリポジトリを構築するときの悩みごと

- 予算がない
 - （本学の場合）図書館システムのリース契約にリポジトリサーバーを含める
- スキルがない
 - （本学の場合）ユーザーコミュニティに助けをもらう
- 人手が足りない...
 - 教員の専門分野や学術情報流通についての知識が深まり、リポジトリ以外の業務にも役立つ

16

2012/12/21

DRF地域ワークショップ(東北地区)
2012年12月21日(金)
@福島大学共生システム理工学類後援募金記念棟

事例発表(1)リポジトリ導入事例
小さな機関のための大きな味方 JAIRO Cloud
～神戸松蔭女子学院大学学術機関リポジトリ
KARASHI-DANE 栽培記～

「Knowledge and Academic Resource Archive
of the Kobe Shoin Women's University
Institutional Data Network」

神戸松蔭女子学院大学図書館
加川 みどり (kagawa@shoin.ac.jp)



お話の流れ

1. 神戸松蔭のあらまし(1分)
2. 神戸松蔭の現在のコンテンツ内容(2分)
3. 運用開始までの道のり
2009年～2012年現在(5分)
4. 今後の課題(1分)
5. まとめ(1分)




ご存知でしたか？

神戸松蔭女子学院大学！

神戸松蔭女子学院大学のあらまし

大学

- 文学部
 - 英語学科
 - 日本語日本文化学科
 - 総合文芸学科
- 人間科学部
 - 心理学科
 - 生活学科
 - 子ども発達学科
 - ファッション・ハウジングデザイン学科




神戸松蔭女子学院大学のあらまし

大学院 (男女共学)

文学研究科

- 言語科学専攻 (博士課程)
- 英語学専攻 (修士課程)
- 国語国文学専攻 (修士課程)
- 心理学専攻 (修士課程)




神戸松蔭女子学院大学のあらまし




学生総数: 2,303名
学部生: 2,261名
大学院生: 42名

専任教員数: 86名
(2012年3月31日現在)


図書館スタッフ:
職員数: 12名
(専任5名 非常勤5名 派遣2名)

 神戸松蔭女子学院大学のあらまし

- ・ 小規模にもかかわらず、文系から理系、芸術系、多義にわたっている。
→コンテンツがバラエティに富む。
- ・ 研究者としてより教育者としての教員。
→研究成果が少ない。



教育成果がある！！

 本学の現在のコンテンツ

- ・ 紀要 2012年度中にCiNii登録済み以外の紀要の登録
- ・ 博士論文
- ・ 科研費報告書
- ・ 学会のプロジェクトによる研究報告書
- ・ 卒論要旨集 (出している学科は現在2学科うち1学科登録済)

+


学術雑誌論文も少しずつ...






今後は...

- ・ 修士論文
- ・ ドレスなどの製作物の写真や動画、図面等
- ・ 学内で出された学報など

メタデータとも学内のみ公開。リポジトリの本来の姿とは反するが、必要不可欠な存在になるはず→本来のコンテンツ収集にも効果があるはず

本学のリポジトリを構築する意義は？！

本来リポジトリの意義はOAだけど...
オープンアクセスに寄与する？ ? ? ? ? ? 

埋もれていた、埋もれるであろう成果の発掘 
大学のショーケース 広報・宣伝 
大学の社会に対する説明責任 
機関誌の発行経費削減 
資料の保存 

「それぞれの機関に応じて意義を見つければ良い」
http://cont.library.osaka-u.ac.jp/kinki3/23_1-maeda.pdf

運用開始までの道のり 2009年～2011年年度

2009年度 ・兵庫県大学図書館協議会のWG参加
(地域共同？ NIIのクラウド構想が。。。)
報告書: <http://lib.kobe-u.ac.jp/AULH/katsudo/22/sokai/ripoWG.pdf>

2010年度 ・DRFに参加 (2010年2月1日参加申込)
・近畿における機関リポジトリコミュニティ形成の支援連続研修会
<http://cont.library.osaka-u.ac.jp/kinki3/index.html>
単独であげるか？ であれば自力構築！


2011年度 ・NII 共用リポジトリ 正式発表
2012年4月運用開始可能→ 学院創立120周年に合わせて公開できる。
NII共用リポジトリ事業に参加することを決定。

2011年度


2011年11月

- ・ NII共用リポジトリでリポジトリ構築を教授会報告。
- ・ 関係する他部署に報告
希望のドメイン名がとれ、ボトムアップの活動として評価された。


2012年1月

- ・ 紀要選及分の包括許諾について学術研究会委員会で審議、承認された。
 郵送した教員からの良い反応
- ・ リポジトリ運用規定の作成
(図書館運営委員会承認)
- ・ 2012年1月末からPDF自炊開始


2012年2月 構築開始



2012年度



2012年 4月2日 運用開始
5月15日 JAIROにデータ提供
7月下旬 ヴァージョンアップ



2カ月弱で 公開・運用開始！



学内広報

- ・ ID登録のために教職員訪問

JAIRO Cloudのメンバー登録は少々面倒だけど、
教員とのコミュニケーションを図るには良い機会、
次年度は全教員へ。

- ・ 学内の行事に参加

(FD研修、学術研究会の集い、業績DB説明会 他)

報告者の先生になるべく早い時期にアタック→パーフェクトな返事で
なくても、前向きな回答がすぐに返ってきた。



問題点

- ・ 論文の数そのものが少ない。
→ 少ないからピンポイントで交渉できるし、
成功率は高いはず。
- ・ 論文以外のコンテンツの収集をどうするか。
メタデータ、データの仕様について検討が必要
→ 実は個人的にやってみよう
- ・ ヴァージョンアップのたびにちょっぴりハラハラ？
→ それも結構楽しかったりする。



課題

- ・ リポジトリ業務のルーチン化
- ・ 次の世代の育成
- ・ JAIRO Cloud事業はずっと続くか？

※学位規則の改正案について

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/004/gijiroku/attach/1328974.htm



リポジトリ構築において学んだこと

- ・ とりあえずやってみる(色々異論はあるだろうけど)
→ 期待していたこと以外にも効果がある。
- ・ 見えていなかった問題が見えてくる
→ その都度考えればよい
(見えない問題が見えてくる事だけでも大きな効果)
- ・ 様々な立場の人の考えが見えてくる
→ 知ることにより意義あり、その他の業務にも効果大！
- ・ 知らないことがいっぱい…
→ 勇気を出して外へ出てみる→ 新たな人脈



困った時に
相談できる
仲間づくり

神戸松蔭女子学院大学
が
兵庫県にあります！

これからもよろしくお願いいたします！



平成24年12月21日
DRF地域ワークショップ(東北地区)「DRF-Fukushima」



事例発表(2): 名古屋工業大学 リポジトリ原則登録のルールづくり

名古屋工業大学
学術情報課 林 和宏

library.repo@adm.nitech.ac.jp

1

発表内容



1. リポジトリ概要
2. 背景と経緯
3. 制度設計
4. 学内合意形成
5. これから

2

1. 本学リポジトリ概要

名古屋工業大学学術機関リポジトリ

- 運用開始 平成20年3月3日
- <http://repo.lib.nitech.ac.jp/>
- システム NALIS-R (Dspace)

登録件数

- 博士論文 393件
 - 雑誌掲載論文 2,264件
 - 紀要 826件
 - 会議資料 40件
- (H24.10.31現在)

名古屋工業大学
・ 工科系単科大学
・ 学生数
学部 : 4,236名
大学院 : 1,541名
・ 教員数 : 339名

3

2. 背景と経緯

他大学の状況

- 世界の状況
<http://roarmap.eprints.org/>
- リエージュモデル
<http://www.berlin9.org/bm~doc/berlin9-rentier.pdf>
- 国内の状況(岡山大学)
<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/html/mandate/>
- システム構築(北陸先端科学技術大学院大学)
<https://dspace.jaist.ac.jp/dspace/bitstream/10119/9019/1/20100622JAISTposter.pdf>

4

2. 背景と経緯

本学の状況(原則公開前)

- 初めは、博士論文を中心に公開。博士論文は、学務課の協力により、論文提出時に、著者許諾をとっている。図書館は、本人から本文テキストデータを得て、出版社著作権確認し、登録。現在、ほとんどの著者がリポジトリへ登録。
- 学内紀要の遡及登録をほぼ完了。今後、発行される学内紀要についても、継続登録許可を得るか、著者への確認を事前に行ってもらい体制を構築。
- 雑誌掲載論文も、研究者データベースを利用して、リポジトリ登録の許諾回答を得ることを開始したが....

5

3. 制度設計

課題の分析

<課題>

- 多くの教員は、リポジトリ登録に反対ではないが、自らが積極的に登録申請することはほとんどない。
- 許諾は得られても、リポジトリ登録が著者版のみに限られる場合(本学では全体の30%以上)、本文テキストデータを得ることが難しい。

調査

<教員へのインタビュー>

- 著作権は大丈夫?
- ただでさえ忙しいのに、仕事が増えるのでは?

6

3.制度設計

制度設計

<Point>

- ・教員の負担を最小限にする。
- ・教員の著作権に関する不安を解消する。

<大原則：リポジトリ運用指針の改正>

本学に所属する教員が、在籍期間中に公表した学術情報等は、著作権等の理由によりリポジトリに登録できないものを除き、原則リポジトリに登録するものとする。

- ・教員は、既に教員評価のために、研究者データベースへの論文情報登録が必須。多数がリポジトリ登録に反対でないならば、デフォルトをリポジトリ登録にすることは、大学全体でみれば、教員の回答負担を増やすものではない。
⇒ 図書館は周知を行い、責任をもって著作権処理を行うこと約束。
- ・教員へのお願いは、“著者版が必要な場合は、論文の本文テキストを図書館へご送付ください！”のみ。⇒ これだけですまないケースは、個別にフォロー。

7

3.制度設計

業務フロー

<教員>

研究者データベースへ発表論文の登録

*登録された論文は、原則公開。非公開を希望する場合は、附属図書館へ申請する。

公開にあたって、著者版の本文テキストが必要な論文については、本文テキストを送付



本文テキストの送付

<附属図書館>

データ利用

本文テキストの提供依頼

リポジトリ登録する論文の出版社著作権を確認

*リポジトリ登録の可否・および登録条件を確認する

本文テキストが図書館で入手可能な論文は、登録へ

リポジトリ登録・公開を行い、研究者データベースからリポジトリへのリンク作成

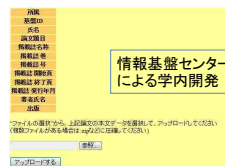
8

3.制度設計

協働による新システムと追加機能

・リポジトリ本文収集システム

リポジトリ本文収集システム



情報基盤センターの協力による学内開発

・依頼をシンプルに伝える。
・論文の送付や管理を簡便化する。

- ・ダウンロード回数メールお知らせ機能
- ・研究者データベースからのリンク

メリットを目に見える形で示し、学内へ制度を浸透させる。

9

4.学内合意形成

学内検討のながれ

- 24. 6. 6 附属図書館委員会(審議)
- 24. 9.12 研究企画院
- 24. 9.18 運営会議
- 24. 9.26 教育研究評議会(報告)

10

5.これから

これから

制度は構築したけれど..

- ・広報活動も必要
- ・成果は、運用次第

⇒ 具体的な成果が出て、それが次の登録につながる循環が理想
例えば、企業との共同研究、他大学からの大学院入学

名古屋工業大学学術機関リポジトリは、本学の教育研究成果について、国際発信・流通を一層推進し、社会へ還元することを目指します。

ご清聴ありがとうございました。

11

DRF-Fukushima アンケート集計結果

1 講演「研究者から見たリポジトリ」について

大いに満足	満足	普通	少々不満	不満	無回答
13	8	0	0	0	0

・90分位欲しかった。
 ・リポジトリ担当者だけでなく、レファレンスやILL担当者にも聞いてほしい内容。リポジトリとその他部門との連携・理解が必要だと感じた。
 ・とても元気づけられるとともに、最初だけでなく、継続して教員にアプローチするべき！というお言葉、肝に銘じて実行していきたいと思います。とても整理された内容で、勉強になりました。ありがとうございました。

2 事例発表（1）リポジトリ導入事例について

●Dspace

大いに満足	満足	普通	少々不満	不満	無回答
8	8	4	1	0	0

●XoonNips

大いに満足	満足	普通	少々不満	不満	無回答
10	8	2	1	0	0

●JAIR Cloud

大いに満足	満足	普通	少々不満	不満	無回答
9	8	2	1	0	1

・各30分位欲しかった。
 ・XoonNipsに非常に興味を持った。コミュニティは必要だと思った。
 ・時間が短い
 ・どの事例発表も、とても分かりやすかったです。後半、時間がなく、少しかけ足気味だったのが残念でした。それぞれのメリット・デメリットを知ることができて良かったです。

3 事例発表（2）リポジトリ原則登録のルールづくりについて

大いに満足	満足	普通	少々不満	不満	無回答
8	7	4	1	0	1

・60分位欲しかった。
 ・ルールは作ったけど、うまく動かすにはいろいろあるかと思われるが、原則であるということを書いたことだけでも大きな進歩かと思います。いろいろ文言真似させていただきたく存じます。またご教示いただければ幸いです。

4 分科会について

大いに満足	満足	普通	少々不満	不満	無回答
5	13	1	0	1	1

・時間が足りません。
 ・いろいろな事例がうかがえて大変参考になりました。
 ・もう少し時間に余裕があればさらに良かったかもしれませんが、お互いに話をするきっかけづくりとしては大成功かと思っています。

5 ワークショップ全体について

- ・とても、参考になりました。ありがとうございました。
- ・終日のスケジュールで企画して下さい。
- ・門間さんの進行上手でした。
- ・貴重なお話を伺え、有難く思います。ありがとうございました。
- ・たいへん勉強になりました。ありがとうございました。
- ・今まで気になっていたも聞くことができなかったことを聞くことができました。
- ・時間に余裕が無かったのが、残念でした。内容は良かったので、じっくりと時間をとれば尚良いと思います。
- ・生の意見がきけてよかった
- ・今回始めて関東より北の地を踏ませていただく機会を得ました。神戸も東北ほどではないにせよかなりの被害を出した地震を経験いたしました。これを機会にこれからも広く情報共有の機会があればと思います。いろいろアレンジしてくださいました皆様ありがとうございました。
- ・分科会に参加することができず残念ではありましたが、リポジトリについての新たな発見や他大学の状況など、大変勉強になりました。また、機会があれば参加させていただき、リポジトリについての知識を深められればと思います。ありがとうございました。

6 その他 回答者のプロフィール・所属機関の状況など

●リポジトリを担当

担当	担当外	無回答
8	12	1

《担当外で業務内容の回答があったもの》

- ・公共図書館の企画管理業務
- ・ほとんどの仕事を担当
- ・相互利用、経理
- ・相互貸借、受入、整理
- ・雑誌担当
- ・図書の受入、発注等、支払担当

●リポジトリの構築状況

構築済	構築中	検討中	白紙	無回答
11	0	4	5	1

図書館におけるソーシャルメディア活用に関する調査（集計）

回答数	大学・高専：10 館 公共図書館：11 館
3.ソーシャルメディアの利用	
3.1.ソーシャルメディアの図書館業務への利用	利用している。（大学・高専：2 館） 検討している（大学・高専：1 館 公共図書館：2 館） 検討していない・利用しない （大学・高専：7 館 公共図書館：9 館）
3.2.(1)利用開始時期	利用している 2 館共に平成 23 年度
3.2.(2) 図書館公式アカウント （3.1.で利用を「検討している」場合にも予定をお知らせください。）	公式アカウント登録館，登録予定館なし
3.2.(3) 担当者	明確に決まっていない（大学 1 館） 担当者は設定しない（利用検討中：大学 1 館）
3.2.(4) 図書館がソーシャルメディアを利用する目的（複数回答）	情報発信（大学・高専：4 館 公共図書館：1 館） 利用者とのコミュニケーション（大学・高専：3 館） 情報収集（大学・高専：2 館） その他（学生図書委員への連絡：1 館）
3.2.(5) 利用に関するルール	ルールがある。（大学・高専：1 館） （公共図書館：1 館 自治体のガイドライン） 準備中（大学・高専：1 館）
3.2.(6) 管理者の承認	管理者による承認を得る体制がある。 （大学・高専：1 館 公共図書館：1 館） 準備中（大学・高専：1 館）
3.2.(7)利用しない理由 （3.1.で「検討していない・利用しない」場合にその理由をお知らせください。）	
（大学・高専） <ul style="list-style-type: none"> ・学内者へのサービスが中心であるため、メールや掲示板による情報発信で周知できることや、他業務との優先順位を考え、躊躇している。 ・他媒体にて利用のため、現状では利用を検討しておりません。 ・運用に不安 ・どのくらい効果があるかわからない ・学内での対応に沿った構築を考えているため ・ソーシャルメディア利用者限定の情報発信となるため。 ・発信する情報によっては、著作権法に抵触する恐れが生じるため。 ・専門知識を持つ人材がいないため。 （公共図書館） <ul style="list-style-type: none"> ・当館の利用者層を考慮すると、高齢者も多く、インターネットやSNSに馴染んでいる世代とは言いがたい。 ・望む相手に対し、情報発信を密に行うことのできるSNS等については関心を持っている。 ・平成 23 年 4 月の新館開館にあわせ、ホームページをリニューアルしたところであり、今のところホームページの充実・更新を図りたい。 ・職員不足 ・年配の利用者が多い事と、地域のインターネット利用率が低いため。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・専門的知識を有する職員がいない。 ・情報発信手段として、将来的に考慮したい。現在は、従来のマスメディアの活用に力を入れたい。 ・対応可能な職員数が足りないため ・職員体制が整っていない、精通する職員がいない。 ・館外対応の O P A C が今年導入されたので、現在は館外 O P A C の利用状況をみている。 ・ソーシャルメディアの運用によるメリット・デメリットについて十分な議論がなされていない。 	
4. ソーシャルメディアの利用効果 (利用機関)	
4.1. 利用の効果 (期待以上) (利用以前に期待していた以上に得られた効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・新着情報として書いたことを学内の多くの人に見てもらうことが出来る。 ・学生図書委員への連絡のために学内放送を使用する頻度が減った。
4.2. 利用の効果 (期待以下) (利用にあたり期待していた効果に及んでいないこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・福島高専 MCS を利用しない学生図書委員への連絡は、MCS による連絡は難しい (3 割程度)。(MCS の利用頻度に個人差がある)
4.3. 図書館サービスに利用することの評価・分析について (実行・検討されている方法等がありましたらお知らせください。)	市全体の広報の中で、図書館の大きな事業の広報のみ発信している。始めたばかりで浸透しておらず、また発信している情報も少ないこともあり、今のところ目立った効果はないように思える。(福島市立図書館)
5. ソーシャルメディアの利用効果 (未利用機関)	
5.1. 期待効果 利用予定・利用検討機関においてソーシャルメディア利用について期待していること。	
<p>(大学・高専)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の即時性 ・利用者が図書館に対し親近感を持つこと <p>(公共図書館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP による広報に比べ、登録者の手元へ情報を発信することができると期待している。ツイッターについては当館のキャラクターと組み合わせ活用することが考えられるのではないかと。 ・一昨年の震災時のような非常の場合、本当に支援を必要としている機関においては、文書・電話・メール等では情報の発信や外部からの状況の確認が困難になることが予想される。そのような場合の情報収集、発信の方法として有効と考えている。 ・今回のアンケート結果により、ソーシャルメディアを利用している図書館の効果について学習し、今後検討していきたい。 ・情報通信環境は、市でサーバーを管理しており、ソーシャルメディアの利用は規制されているが、郡山市 facebook が平成 24 年 11 月から開設されたので、その利用ガイドラインに沿って活用を検討する。 ・実施可能な図書館から推進し、利用効果をあげることで、多くの館が追随することを期待している。 ・口コミによる宣伝効果。 	

「3. ソーシャルメディアの利用」の回答館数には未利用 (利用検討中) 館も含まれます。

震災関連資料収集・情報提供に関する調査

加盟館	
会津大学短期大学部附属図書館	震災関連資料を収集し、特設コーナーに配架し、提供している。
いわき明星大学図書館	<p>1. 震災後の地域貢献や被災者支援活動 (1) 被災した学生へ辞書等資料を提供しました 震災に伴い手元に辞書等がなくなり困っている学生を対象に、資料(中古)を提供しました。 期間:2011/5/31-2012/3/31 提供数:計5名11冊 (原発事故に伴う避難4名,津波被害1名) (2) 東日本大震災に伴う福島県双葉地区高校の生徒へ図書館開放 福島県双葉地区高校への本学施設貸出に伴い、学内施設へ通学する高校生へ図書館と学習センターを開放しています。図書の貸出規則は、4~7月にガイダンスを実施して、高大連携校と同様としています。</p> <p>2. 調査結果や震災関連資料の収集 本学復興事業センターの震災関連資料収集に伴い、選書サポート中です。</p>
奥羽大学図書館	・震災関連資料の収集
桜の聖母短期大学図書館情報センター	3・11以後、1年以上経過したということで、それまでに購入希望がでたものも含めて受け入れた震災関連の資料を集めて、別置し、特別展示を一ヶ月ほど行った。
東日本国際大学・いわき短期大学昌平図書館	<p>震災関連の資料の収集 ・放射能関係資料 ・震災の記録;主に福島県内 ・新聞記事集約版</p> <p>いずれの資料も若干数 収集リストについては、既に福島大学附属図書館へ報告済み(平成23年11月25日付)</p>
福島県立医科大学附属学術情報センター	<p>震災後、図書館ホームページに震災関連情報を載せている。 放射能関連情報(http://www-lib.fmu.ac.jp/hoshanou.html) 原子力・放射能関連ブックリスト(http://www-lib.fmu.ac.jp/bl1105.html)</p>
福島県立図書館	<p>東日本大震災福島県復興ライブラリーを設置(平成24年4月28日) 東日本大震災福島県復興ライブラリー資料一覧(平成24年9月11日付)(PDF形式) http://www.library.fks.ed.jp/ippan/tosyokanannai/kankobutsu/kyodo/240911sinsaihukku.pdf 3・11からの新聞 平成23年3月、4月、5月分 地元新聞にみる原発関連見出し一覧(平成23年11月30日現在) http://www.library.fks.ed.jp/ippan/tosyokanannai/kankobutsu/kankobutsu.html 本の森への道しるべ(パスファインダー)「警戒区域・計画的避難区域内のことを知る」 http://www.library.fks.ed.jp/ippan/home/honnomori/pdf/chiiki-28.pdf 本の森への道しるべ(パスファインダー)「雑誌記事にみる東日本大震災」 http://www.library.fks.ed.jp/ippan/home/honnomori/pdf/chikukan-16.pdf 震災により避難している方の図書館利用について http://www.library.fks.ed.jp/ippan/riyoannai/riyoannai.htm (直接利用) http://www.library.fks.ed.jp/ippan/riyoannai/kojin/takuhai/takuhai.htm (資料宅配) 東日本大震災関連情報リンク集 http://www.library.fks.ed.jp/ippan/sinsai_zyouhou_link.html 東日本大震災による福島県内の図書館の開館・被害状況等について http://www.library.fks.ed.jp/ippan/sinsai_higai_fukushimaken_library.html 東日本大震災関連資料の寄贈のお願い http://www.library.fks.ed.jp/ippan/tosyokanannai/kiso/sinsaihukkoukizouonegai.pdf</p>
福島工業高等専門学校図書館	<p>・震災関連資料の収集 昨年度と今年度において、東日本大震災に関する記録、地震・防災に関する資料、原発・放射線に関する資料、エネルギーに関する資料、まちづくりに関する資料の収集を行った。</p> <p>・専攻科の地域復興人材育成コース設置に伴う資料の収集 来年度の地域復興人材育成コースの設置に伴い、本科においては、後期から関連授業が開設されたが、学内特別予算を申請し、このコースに関連する「原子力安全」、「再生可能エネルギー」、「減災都市工学」等の資料を購入し、学生貸出用として配架した。</p>

震災関連資料収集・情報提供に関する調査

福島学院大学・福島学院短期大学 図書館情報センター	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後の地域貢献や被災者支援活動については、行っていない。 ・「震災関連資料の収集」は行っており、随時、関連図書の購入をしている。 また、テーマを決めてコーナーを設置し、本の展示をしている。
福島大学附属図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・「震災関連資料コーナー」を設置し、2,251点の資料を配置した。(継続受入中) http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/tenji/sinsai.html ・「震災資料を図書館に」キャンペーンに呼びかけ機関として参加した。 http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/shinsai/irai.html ・流通していない学内に蓄積されている資料について教員へのメールや役員会・教育研究評議会等で提供を呼びかけた。さらに、教員控室に資料提供用の箱を設置し、提供資料を回収するようにした。
参加館	
会津若松市立会津図書館	<ol style="list-style-type: none"> 1、避難所への図書の配本 市内4か所に設置された避難所へ、各300～500冊の除籍図書を配本した。 2、避難者への館外貸出 新館開館(平成23年4月)にあわせ、避難者(全会津地域)の方にも館外貸出を開始した。 3、企画展示 企画展示コーナーにおいて、「震災・放射能関連図書」を展示した。 4、関連図書の購入 東日本大震災及び放射能に関連する図書の購入に努めた。
いわき市立いわき総合図書館	<p>災害対策本部の被災者支援業務として、安否確認電話の応対、避難所の支援、救援物資の配布、ヨウ素剤の配布などの業務への職員の動員があった。また、被災状況の確認業務や、震災記録を作成する業務への職員の長期派遣もあった。</p> <p>震災関連資料については、震災のために配達されなかった新聞を後日取り寄せ、保存のために製本した。また、災害対策本部をはじめとする、市から発信された情報もプリントアウトし、復興計画等と共に複製・製本した。市販の関連図書等については、地域に関するものを中心にくまなく収集し、「東日本大震災いわき市復興ライブラリー」を設置して、製本した新聞並びに市からの情報と共に利用に供している。</p>
喜多方市立図書館	<p>図書館内での、「政府からのお知らせ」(農林水産省HPより)「福島県からのお知らせ」(福島県土木部建設総室HPより)「喜多方市からのお知らせ」「喜多方市からの緊急情報」「放射能測定情報」(喜多方市HPより)を掲示し、地震情報や放射能情報を提供しました。</p> <p>また、「きたかた社共 災害対策ブログ」(喜多方市社会福祉協議会によるボランティアセンター運営ブログより)「喜多方市内宿泊施設空き室情報」(喜多方市より)では、被災された方への支援の様子や避難場所情報を提供しました。</p> <p>また、震災・放射能に関する資料をまとめた特集コーナーを設置しました。避難施設におけるサービスとしては、避難施設へ児童書・雑誌の貸出と、ユニット折り紙教室・読みきかせの開催を行いました。</p> <p>避難された方も、現在喜多方市在住と確認が取れれば、市内の方と同じように図書館サービスを利用いただいています。</p>
郡山市中央図書館	<p>東日本大震災コーナーの設置</p> <p>郡山市図書館では地域を支える情報拠点として、東日本大震災の記憶を風化させることなく後世に引き継ぐため東日本大震災コーナーの設置を予定しております。</p> <p>コーナーは、中央図書館、地域図書館3館、オンライン分館8館に設置し、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故に関する資料、防災、ボランティア、放射線に関する資料を収集、閲覧、保存していくものとします。</p>
新地町図書館	<p>被災者支援活動</p> <p>仮設住宅移動図書館 - 図書・雑誌等500冊を搬入し、仮設住宅入居者等への貸出を行った。(仮設住宅7箇所 平成24年6月27日～7月5日)</p> <p>震災関連資料の収集・展示貸出(http://www.shinchi-town.jp/eventguide/349.html)</p>
須賀川市図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・館内に「震災・防災・原発」コーナーを設置 ・避難者に、利用者カードを発行し、図書館資料の貸出や情報を提供。 ・避難所に絵本や雑誌、寄贈された一般図書やコミック等を設置。

震災関連資料収集・情報提供に関する調査

田村市図書館	<p>当市都路地区・大熊町の避難所へ図書の貸出(トータルで600冊)</p> <p>原子力事故関連資料の収集と専用コーナーの設置(OPAC上は請求記号の頭にGと付されているもの・場所は原発・放射線関係と表記されているもの)</p> <p>田村市のホームページから図書館のボタンを選択し、蔵書検索画面から検索</p> <p>http://www.city.tamura.lg.jp/soshiki/31/</p>
二本松市立二本松図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・震災による当館の被害は軽微で、原発避難者も多く当市に入ってきたため、翌週から4月半ばまで連日開館(蔵書点検中の図書貸出を除く)し、新聞・インターネットの利用者の便を図った。 ・震災1週間後に当市に避難している主な避難所10箇所に、約100冊の図書(主に児童書)の貸出しを行なった。
福島市立図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村から福島市内へ避難してきた方へ市民と同じ図書館サービスを提供 ・震災関連資料の重点的な収集(県北と避難区域内、原子力災害対応に参考となる資料等)

《 福島図書館を考えるシンポジウム 》

日本図書館協会東日本大震災対策委員会

日本図書館協会は、2012年11月10日（土）福島県立美術館講堂において福島県公共図書館協会と共催して「福島の図書館を考えるシンポジウム」を開催した。

シンポジウム開催のきっかけになったのは、日本図書館協会の東日本大震災支援の1つとして行った「Help - Toshokan ツアー"東北を知ろう"第3回福島県内被災地図書館訪問と交流の会」（2012年6月1日～3日）で、警戒区域の富岡町図書館で司書をされていた菅野佳子氏の話を聞いた事による。

震災から津波、福島第一原発の爆発による菅野氏の体験はあまりに衝撃的で、この話は多くの図書館人に知ってもらい必要があるとのことから、福島県立図書館の協力により実現した。

シンポジウムは、まず松岡要氏（前日本図書館協会事務局長）が統計資料等に基づき、原発地域の市町村の財政や図書館の状況を分析、今後の課題が示された。その後、警戒区域の大熊町、双葉町、浪江町、富岡町の図書館職員（だった）風間真由美氏、北崎周子氏、屋中茂夫氏、菅野佳子氏からそれぞれ震災・原発事故前後から避難の状況が報告された。

風間真由美氏（大熊町）からは、読書の町づくりと、町と連携した図書館の活動、震災当日の図書館、避難所での活動の報告があり、今後の課題として、個人情報管理や貴重資料の搬出、言葉や民俗等無形文化の維持が挙げられた。また、困難な避難所生活の中、手作りの「避難所新聞」を43号も発行したなどが話された。（写真）

川俣町からさいたまスーパーアリーナ、加須市の旧埼玉県立騎西高校へと避難した町民とずっと行動を共にしている北崎周子氏（双葉町）からは、双葉郡内で最初に開館した双葉町図書館の概要、震災当日の状況、避難所内に開設した子ども図書室の活動についての報告。課題として、寄せられた支援図書への扱いが挙げられた。

屋中茂夫氏（浪江町）からは、震災前の図書館の概要、福島市の仮設住宅内に開館された（仮設図書館）「浪江 in 福島ライブラリー きぼう」（写真）が紹介された。「きぼう」は、解体可能で、5年後に戻った時は移設する予定だが、まずは生活再建が優先事項であること、町の復興計画を説明するために、全国を回っていること等の報告があった。

菅野佳子氏（富岡町）からは富岡町図書館の概要、川内村からビッグパレットふくしまへの避難状況、ビッグパレットでの図書室活動の状況、現在も震災当時のままの資料の保存や避難の課題が挙げられた。

報告された4人は同地域の図書館と言うこともあり震災当日も会う事になっていたが果たせず、実に1年8ヶ月ぶりの再会だったそうだ。会場からは「この話は世界に発信してほしい」と。また、アンケートには「生の声の与える力は、マスコミ等から伝わるものとは比べものにならないくらいである」、「このことは福島県民なら誰でも知っている。福島以外でこそやってほしい」とも書かれていた。





段ボールに書かれた幻の1号
 残念ながら始末されてしまった
 （写真提供：風間真由美氏）



「浪江 in 福島ライブラリー きぼう」
 （写真提供：屋中茂夫氏）

「震災記録を図書館に」キャンペーン

震災後、東北地区被災3県(岩手・宮城・福島)では県立図書館において大震災の記録の収集や市民への公開が行われ、また、同3県の大学図書館でも震災関係資料の収集・提供が行われました。

福島大学附属図書館では震災後に、市販されている震災・復興・原発関係資料を重点的に収集・提供し、さらに、教員による復興種支援活動に関わる研究・活動成果の収集も計画し、実行方法を探っていましたが、各図書館においても震災記録収集活動の周知に苦慮している状況があり、平成23年12月に東北大学附属図書館から3県合同キャンペーンの提案がありました。

これは、震災記録収集活動を合同キャンペーンとして広報し、社会的インパクトにより呼びかけの効果を期待するものです。

平成24年1月に仙台で開催された「東日本大震災アーカイブ国際ワークショップ(図書館連携)」においてキャンペーン実施案が提案され、具体的活動としてポスター・チラシを3県の生涯教育関係機関(MLAK)および全国の大学図書館・学協会等に配布し、掲示を呼びかけることが提案されました。

これに対して、saveMLAK[*]のメンバーから、国内全体への呼びかけをするために日本図書館協会等へ協力を要請して全国の公共図書館へも配布することが提案されました。

当館もキャンペーン呼びかけ団体として参加することになり、ワークショップでの論議を経てキャンペーンを実施し、ポスター・チラシの配布、さらに、東北大学附属図書館が中心になりWebサイトの運営を行っています。

震災記録収集活動に関する広報は共同キャンペーンとして行いましたが、収集活動は各図書館が個別に継続的に行っています。当館では、学内教員への呼びかけや定例記者会見で「震災記録を図書館に」についてプレスリリースするなど学外へも呼びかけを行っています。

キャンペーンの広報に対して、当館への反響は現況では活発とはいえないものの、今後も継続して呼びかけを行っていく計画です。学内では、媒体や入手先の違いによる「うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)」との協働で収集活動と資料整理・保存について計画しています。



<キャンペーン呼びかけ団体>

岩手県立図書館、宮城県図書館、福島県立図書館、仙台市民図書館、
岩手大学情報メディアセンター図書館、東北大学附属図書館、福島大学附属図書館、
神戸大学附属図書館

<キャンペーン賛同・協力団体>

みちのく震録伝、saveMLAK、国立国会図書館、図書館振興財団、日本図書館協会、
日本古書籍商協会、図書館総合展運営委員会、情報知識学会、防災科学技術研究所自然災害
情報室

saveMLAK

saveMLAKは博物館・美術館(M)、図書館(L)、文書館(A)、公民館(K) (M + L + A + K = MLAK)の被災・救援情報サイトです。被災地域の各施設の被災情報を集め、必要とされている情報を発信しています。情報の大部分は多数の有志によって更新されています。

<http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:saveMLAKsaveMLAKについて>

福島大学附属図書館
対馬 庸二(つしま ようじ)

福島県内大学図書館連絡協議会会則

制定 昭和 6 0 年 2 月 2 8 日
 改正 平成 2 年 7 月 6 日
 改正 平成 5 年 7 月 9 日
 改正 平成 7 年 7 月 2 5 日
 改正 平成 1 2 年 7 月 1 4 日
 改正 平成 1 5 年 7 月 1 1 日
 改正 平成 1 6 年 8 月 6 日
 改正 平成 1 7 年 8 月 5 日
 改正 平成 1 8 年 8 月 2 4 日

- 第 1 条 本会は、福島県内大学図書館連絡協議会（以下「協議会」という）と称する。
- 第 2 条 協議会は、次の大学図書館及び福島県立図書館並びに福島工業高等専門学校図書館をもって組織する。
- 1 会津大学情報センター
 - 2 会津大学短期大学部附属図書館
 - 3 いわき明星大学図書館
 - 4 奥羽大学図書館
 - 5 郡山女子大学図書館
 - 6 桜の聖母短期大学図書館情報センター
 - 7 昌平図書館（東日本国際大学・いわき短期大学）
 - 8 日本大学工学部図書館
 - 9 福島県立医科大学附属学術情報センター
 - 1 0 福島学院大学図書館情報センター
 - 1 1 国立大学法人福島大学附属図書館
- 第 3 条 協議会は、加盟館相互の緊密な連携と協力により、図書館の施設、管理、運営などについての進歩、改善を図ることによって、地域社会の進展に寄与することを目的とする。
- 第 4 条 協議会は、前条の目的を達成するため、随時図書館に関する講習会の開催、その他必要と認める事業を行なうものとする。
- 第 5 条 協議会の総会は年 1 回開催する。但し、必要に応じて臨時に開催することができる。
- 2 開催地については、原則として福島地区、郡山地区、いわき地区、会津地区とし、1 か年交代とする。
- 第 6 条 会務を処理するために、幹事館をおく。
- 2 当分の間、福島大学附属図書館を常任幹事館とする。
 - 3 第 5 条第 2 項における開催地区の加盟館の中から、協議によって、年度幹事館を選出し、年度幹事館は当該年度総会その他の事業運営を処理する。
- 第 7 条 協議会の事務局は、常任幹事館内におく。
- 第 8 条 協議会の運営に要する経費は、会費その他の収入をもってあてる。
- 会費は年額 5 , 0 0 0 円とし、会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 3 1 日に終わるものとする。
- 附 則 この会則は、平成 2 年 7 月 6 日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成 5 年 7 月 9 日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成 7 年 7 月 2 5 日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成 1 2 年 7 月 1 4 日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成 1 5 年 7 月 1 1 日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成 1 6 年 8 月 6 日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成 1 7 年 8 月 5 日から施行する。
- 附 則 この会則は、平成 1 8 年 8 月 2 4 日から施行する。

福島県内大学図書館連絡協議会誌 第14号

平成25年3月 発行

編 集 : 昌平図書館(東日本国際大学・いわき短期大学)

編集協力 : 福島学院大学図書館情報センター

福島大学附属図書館

発 行 : 福島県内大学図書館連絡協議会